

# 「大乘寺系回向帳」二冊―解題と翻刻

鶴見大学仏教文化研究所客員所員 尾崎 正善

## はじめに

宗門では、毎日の朝課誦経・日中誦経・晚課誦経、さらに各種法要と、多くの場面で読経が行われる。その際の読経・誦経・挙経法・打磬法は『行持軌範』に定められている。

しかし、そこで定められたものが、古くからの伝統に基づくものであるかは、甚だ疑問である。結論を述べるならば、明治二十二年の『明治修訂洞上行持軌範』制定の段階で、統一が図られたと考えられる。

さらには、江戸期の回向文の読誦法も、現行の書き下し文ではなく、漢文原文を冒頭部分から音読する形式であったと考えられる。それは、現在も「施食会」「楞嚴会」等に一部継承されている。

無論、書き下し文において唱える形式も確認出来るが、現行のものと異なるだけでなく、漢文原文のままの形式と混在しており、明確な使い分けがあるのかは判然としない。

また經典読誦の方法も、発音も含め時代や地域によつての差違も認められる。

以上の様に、身近な儀礼においても時代による変遷が想定されているのであるが、そうした点を明確にする資料がいままで紹介されていなかった。

今回、翻刻紹介する資料は、江戸後期の「大乘寺系回向帳」二冊である。この二冊の「回向帳」を通して、江戸期の読誦経典・挙経法や打磬法、さらに叢林内での諸注意を確認してみたい。

## 一、書誌

最初に、今回紹介する二冊の回向帳の書誌を記しておきたい。

まず一冊目の『僧家行事抄』は、近年入手したもので、大乘寺系の回向帳であることと書写年代が明らかである。これに対して、もう一冊の『大乘寺回向帳』（仮）（以下、『大乘回向』と略す）は、以前より手元にあったものであるが、時代や由来が不明であった。『僧家行事抄』を入手し、両写本を比較した結果、記述内容、特に「維那口伝」が共通している事により、同系統の回向帳である事が判明した。

なお、「回向帳」と総称したが、拳経・打磬に関する記述が中心で、さらに『大乘回向』には読経法・書式・法要等の諸注意が記されており、「維那寮備忘録」の性格が強い。次に個別の書誌を記す。

### ①『僧家行事抄』

数量 一冊

丁数 十四丁（欠丁・錯簡ナシ）

装丁 粘葉

法量 25.7×18 cm

外題 僧家行事抄 全（表紙に直接）

内題 松寿林大乘護国禅寺維那寮記

尾題 大乘維那寮秘典

奥書 時天保十四年癸卯年孟夏上幹日

但馬養父郡一部郷在天女山下写終ル

甲州之産人

佛貫護持

書写者 佛貫

年代 天保十四年（一八四三）

② 『大乘寺回向帳』（仮）・『大乘回向』

数量 一冊

丁数 十九丁（欠丁・錯簡ナシ）

装丁 粘葉

法量 23.7×17 cm

外題 ナシ

内題 ナシ

奥書 ナシ

書写者 不明

年代 不詳

『僧家行事抄』は、拳経・打磬法・回向と「維那口伝」で終わりであるが、『大乘回向』は、「維那口伝」に続いて、読経法・発声法・馴らしの心得・疏印の諸注意等から始まり、臘八・歎仏・講式・伽陀、そして布薩・四弘誓願まで様々な内容が記されている。

その数は、庵点の付されているもの三十九項目、その他庵点はないが一項目と思われるもの六項目、そして最後の布薩・四弘誓願を含め、四十七項目の多くを数える。

これらは、維那寮においての心得であり、法要指導の為の備忘録と思われる。

## 二、時代と系統

次にこの二冊の系統・関係・成立時代を論じてみたい。

まず、『僧家行事抄』が、大乘寺系史料であることは、内題・尾題から明白である。また、『大乘回向』には、内題・尾題は明記されないが、「栴樹林テハ」(13才)という記述がある点と、先に述べたように記述内容の一致から同系統であることは間違いない。

次に成立年代についてである。『僧家行事抄』には、天保十四年(一八四三)という書写年が明記されており、江戸後期に使用されていたことは確認できる。

一方、『大乘回向』には、書写年は記されないが、「元禄一二月十五日 第何世法孫某甲 謹疏」(9才)という記載が「涅槃会疏」に見られる。

これは、その当時作製された雛形とみる事ができよう。

無論、この年号は「回向帳」が製作された年と断定するものではないが、少なくとも「元禄年間」は、大乘寺において卍山道白(一六三六〜一七一五)が活躍した時代に該当する。その時代に大乘寺において制定された『栴樹林清規』と平行して使用されていた「回向帳」が、時代を経ながら代々書写されてきたと見ることができよう。

最後に、二冊の相互関係であるが、その先後関係も含め断定する事は困難である。

しかし、『大乘回向』には一箇所、「異本ナシ」の記述があるが、その箇所に該当する「大施餓鬼文」「蒙悔」に

については、『僧家行事抄』にもあることから、同一系統の写本の可能性が高い。

少なくとも大乘寺における掬経・読経・法要の諸注意に關して、参学した修行僧が書写し、送行後各地の寺院にて使用したものと思われる。そのため、『僧家行事抄』の奥書には、「但馬養父郡一部郷在天女山下写終ル。甲州之産人、佛貫護持」と書かれているのであろう。

これは、但馬養父郡において、甲州出身の佛貫が書写し護持したと思われるので、当時の大乘寺参学の状況のみならず、伝播の一端を窺い知る記述と言える。

このような「備忘録」が、『梶樹林清規』同様全国各地に伝わり、「規矩大乘」の名を高めたと思われる。

### 三、特徴

最後に、今回の「回向帳」記述内容の特徴、注目すべき点の幾つかを指摘しておきたい。

#### ①法要内容

本史料に記録される法要は以下の通りである。

祝聖・朝課・齋堂(展鉢)・祖堂・轉読大般若・日中・祖堂・晚課・楞嚴会・懺法・遶仏

最後に「維那口伝」があり、『大乘回向』には読経・法要諸注意が付される。

以上をみると、この一冊で特別な法要を除いて一日の法要及び叢林での主要な法要を網羅しており、全て事足りることが分かる。

#### ②読誦経典

江戸時代、それぞれの法要で如何なる経典を読誦していたのか。本史料においては、その点も確認できる。

本史料の作製された大乘寺における諷経は、『栴樹林清規』巻上「日中行事」に以下の様にある。

〔朝課〕今ハ開静以後、即大殿ニテ諸諷経アル故ニ、粥ヲ喫スル事ハ、諷経以後和尚ノ巡堂罷ナリ（『曹全』

「清規」444上）

〔日中〕諷経モ清規ニハ、尊勝陀羅尼七編誦ス、是ヲ曰日中トアリ。今マ当山ニハ金剛経一巻、尊勝陀羅尼一遍ニテ、日中回向シ、次一遍消災呪ヲ誦スナリ、回向アリ、次ニ主人大衆同ク三拜シテ退ス、但シ祖堂、又ハ靈堂ニ就テ、遶行アル時ハ、七遍尊勝陀羅尼ナリ（『曹全』「清規」446上）

〔晡時〕今ハ晡時諷経アレバ、諷経前ニ放參ノ法アリ、次ニ殿鐘三会ス。大衆上殿シテ、三陀羅尼、略施食、怡山願文等、又ハ其ノ日懺摩法アル時ハ、陀羅尼略シ、施食アル時ハ略施食ナシ。楞嚴呪ヲ誦シ、參後回向ス。

（『曹全』「清規」447上）

以上のように、「朝課」における具体的經典名は記されないが、「日中」「晡時」に関しては明記される。

因みに、『僧堂清規行法鈔』巻一「日分課誦回向文」には、

佛殿〈粥了〉

上來誦誦〈経号〉功德回向（以下略）（『曹全』「清規」64下）

伽藍神

上來誦経〈経号〉所集功德祝献（以下略）（『曹全』「清規」65上）

等とあるように、様々な經典誦誦の幅を持たせていた。

さて、本史料での經典は、朝課は、「観音経・大悲呪・消災呪」である。（『僧家行事抄』（2ウ）・『大乘回向』（1ウ））

これは、大安寺所蔵『回向并式法』において、

上來、当塗王經、大悲圓滿無碍神呪、消災妙吉祥陀羅尼を諷誦す、集る所の功德は、真如實際無上仏果菩提に回向す。(以下略)

とあるように、十五世紀末の時点で、当塗王經(『法華經』「普門品」)・大悲圓滿無碍神呪(『大悲呪』)・消災妙吉祥陀羅尼の誦誦が確認されるので、それを継承していたと思われる。

次に、日中は、「仏頂尊勝陀羅尼・消災呪」である。(『僧家行事抄』(6ウ)・『大乘回向』(4ウ))さらに、祖堂では「金剛經」の名も確認できる。これは、先の『相樹林清規』の記載を裏付けるものである。

次に、晩課は、「晩課 無願文 南無三滿多 打磬二声」とあるが、これは、「怡山願文」が無い時は、という意味であろう。(『僧家行事抄』(7ウ)・『大乘回向』(5オ))

その時唱えるのが、『請觀世音菩薩消伏毒害陀羅尼經』である。この經典は、『觀音懺法』において導師が唱えることが知られている。<sup>(1)</sup>

ただし、比較するとその声明符に関しては同じではない。いずれにせよ、この經典の性格上、「大悲呪」に準じて唱えられていたと考えられるが、これを晩課で唱えていた事例は他に確認できず、大変興味深い記載である。

さらに「略施食」が確認できる。これは、現在に継承されるものである。

### ③ 挙経法

『大悲呪』の挙経について現行『行持軌範』には、

「大悲、心陀羅尼」と挙す。「千手千眼觀自在云々」又は、「南無喝囉怛那」とは挙さない。<sup>(2)</sup>

とある。この一文に違和感を覚える者も多いのでなからうか。なぜなら、現在宗門の法要で「南無喝囉怛那」と挙経する例を見る事はないからである。かつて、筆者は、臨濟系の法要でそのような挙経法に遭遇し、その違いに驚いた

のである。しかし、本史料によると江戸時代曹洞宗においても、「南無喝囉但那」と唱える拳経法を用いていたことが明らかになった。（『僧家行事抄』（1才・3才・5才）・『大乘回向』（1才・2才・3才））  
現行『行持軌範』の記述は、『明治校訂行持軌範』にも、同文が確認できる。<sup>3</sup>  
このことから、その当時臨済系との相違も意識し、経文の一句目を拳経する形式から、経題を拳経する形式へと宗門での統一が図られたものと想定される。

なお、陀羅尼の拳経法に関して、野口善敬『禅門陀羅尼の世界』において、『大悲呪』についての論究がある。<sup>4</sup>

#### ④ 打磬法

現行の打磬法は、『行事軌範』第三編・基本作法、第十「打磬法」に定められている。無論、それぞれの寺院による伝統的な打磬法も存するが、宗門としての統一が図られている。

これに対して、江戸期の打磬法はどうであったのか。これに関しても、『曹洞宗全書』に紹介される史料などに確認することはできない。筆者の知る限り、今回紹介する史料以外に打磬法を記したものはない。

そうした意味からも現在との類似点・相違点を明らかに出来る好箇の史料である。

#### ⑤ 声明符

すでに指摘したように、江戸時代の回向文は、文頭より棒読みの場合が多い。その時の唱え方はどのようなものがあったのか。

今回の史料には、様々な声明符や、「待・引・押・打・切・上・下」等の発声の諸注意、読み仮名が記載されている。こうした声明に関する記述は、講式本に見られるだけで、回向帳にまで及んでいた例は初出と言えよう。



以下推測であるが、江戸期においては、このように節を付けて唱えるのが一般的であった可能性もある。それが明治以降、各僧堂、地域による差違を宗門内で統一するため、敢えて声明符を削除することが図られたとも考えられる。

さらには、これらの記号によって当時どの様な節回しで唱えていたのか。どのような読みであったのか。現行では行われない発声・読誦法なので、今後の検討が待たれる。

#### ⑥ 注記

法要に関する注記が、割注の形式で確認できる。これらは各法要の主題の箇所や最後に記される。こうした補足は、当時の法要の問題点を知る重要な指摘と思われる。

#### ⑦ 法要諸注意

先に指摘したように、『大乘回向』のみであるが、行事に関する細かな諸注意が確認出来る。その項目数は、四十七にも及ぶ。それら諸注意の一端を述べないが当時の法要・修行の在り方を確認することができる。このような心得・注意事項が大乘寺だけのものであったのか、他の史料との比較検討が必要であろう。

#### ⑧ 異本校合・訂正

異本校合の指摘が見られる。これは先に述べた『大乘回向』に一箇所記されるのみである。(5ウ)しかし、何点か朱筆での訂正箇所も確認できる。こうした点は、同系統の写本が幾つか存在していたことを窺わせる。

何度も述べるように、法要の回向帳・維那寮の備忘録の性格を有する史料であるため、修行僧がそれぞれ書写し護持していたため、多くの写本が存在したと思われる。同時に、異本・誤写も多数生じたと考えられる。

⑨大乗寺である意味

今回紹介の二冊は、たまたま大乗寺系であった可能性も否定できない。しかし、「規矩大乘」と呼ばれる江戸期の隆盛の一端を明らかにするものと考えられる。

多くの雲水が各地から集まり、修行に励み、そして大乗寺における日分・月分・年分の行持、法要次第、法要諸注意、そして回向・鳴らし物を学んだのである。

それは、「楳樹林系清規」の写本が、全国各地に現存する事にも確認できる。そうした流れの上に、今回紹介の史料が存在したと思われる。

おわりに

以上、大乗寺系「回向帳」を通して、江戸時代における拳経・打磬法・法要の特徴の一端を紹介した。変化の過程と現代の状況を再考する一助になれば何よりである。

今後さらなる史料の発見により、江戸期の法要の特徴が明らかになることを期待したい。

註

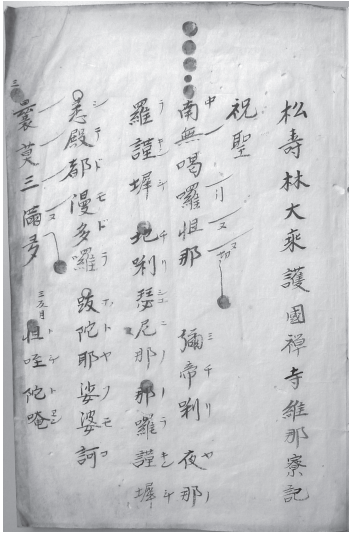
- (1) 『昭和改訂・観音懺法』（一四頁・一七頁・一九頁）葛西好雄氏の御教示による。
- (2) 『昭和修訂曹洞宗行持軌範』第三編・基本作法、第八「拳経法」十三、大悲呪（四一三頁）
- (3) 明治二十二年『明治校訂洞上行持軌範』巻下「附属法並臨時行持・雑部類・拳経法」（巻下・十三三表）

(4) 野口善敬『禪門陀羅尼の世界』「一、禪宗におけるお経の誦み方」一九頁(禪文化研究所・平成十九年) 挙経法全般に関する詳細な論考が成されているので合わせて参照頂きたい。

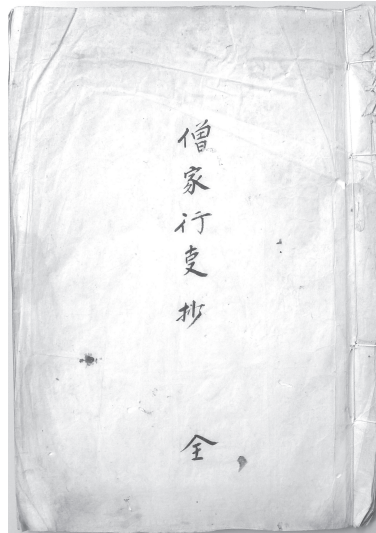
## 翻刻・凡例

- 一、『僧家行事抄』・『大乘寺回向帳』（仮）の翻刻紹介である。二冊ともに、筆者の所蔵史料である。
- 二、上段に影印、下段に翻刻を記した。
- 三、翻刻は、文字と打磬点のみを原則とした。
- 四、声明符（ノ・ㄱ・ㄴ・ㄷ・ㄹなど）・読誦法の注記（引・又・切・又切・持・上・下・印など）は、割愛した。
- 五、字体は、判読の便を考慮して原則当用漢字に改めた。判読の便を考慮して、ㄴㄴシテ、ㄱㄴコト、ㄱㄴトキ、ㄱㄴトモ、に改めた。
- 六、打磬点は、●、○、●、▲、△等で示した。
- 七、写誤と思われる箇所について、特に指摘しなかった。それは、当時経典の記載法の相違という可能性が有るからである。
- 八、経典名を、（ ）を用いて補筆した。

(一丁才)



(表紙)



僧家行事抄 全

(表紙)

松寿林大乘護国禪寺維那寮記

祝聖

(大悲呪)

●●●南無喝囉怛那 ● 彌帝唎夜那

●●●羅謹囉 ● 地唎瑟尼那 ● 那囉謹囉

○ 悉殿都漫多囉 ○ 跋陀耶娑婆訶

(消災呪)

三 ● 曩莫三滿多 ● 但唎陀唵

(1才)

(1丁ウ)

瑟致哩 瑟致哩 扇底迦室哩曳

回向 有口傳

心性正覺 大智海藏 修成如來 圓

通聖衆 和光同誦 大圓滿無碍神呪

消災妙吉祥神羅尼所集 鴻因恭為祝

延 今上皇帝聖壽無疆無量壽佛

諸尊菩薩 摩訶般若波羅密

每朝一返消災呪

曩莫三滿多 怛姪他唵 佉佉佉

唵囉囉囉 囉囉囉囉 囉囉囉囉

致哩 瑟致哩 娑發吒 娑發吒 扇底

(2丁才)

○瑟致哩 瑟致哩 ○扇底迦室哩曳

回向 有口傳

心性正覺 大智海藏 修成如來 圓

通聖衆 和光同誦 大圓滿無碍神呪

消災妙吉祥神羅尼所集 鴻因恭為祝

延 今上皇帝聖壽無疆無量壽佛

諸尊菩薩 摩訶般若波羅密

每朝一返消災呪

(消災呪)

曩莫三滿多 ● 怛姪他唵 ○佉佉佉

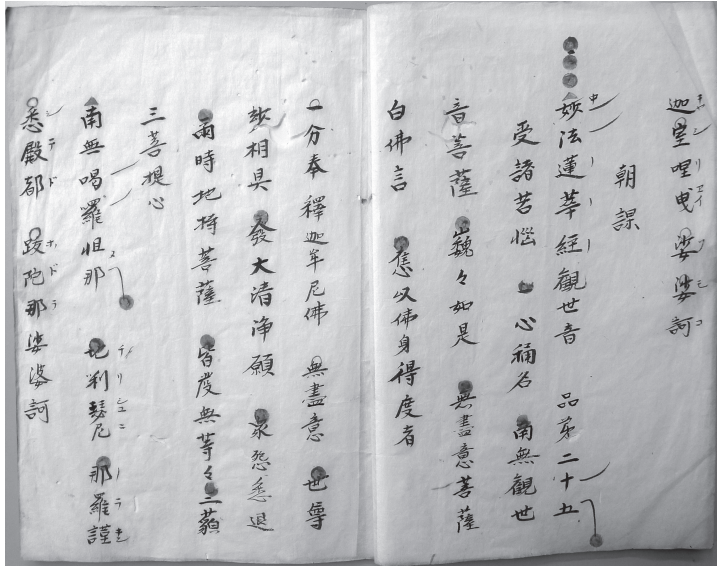
唵囉囉囉 ○囉囉囉囉 ○囉囉囉囉

致哩 ○瑟致哩 ○娑發吒 ○娑發吒 ○扇底

(2才)

(1ウ)

(2丁ウ)



(3丁オ)

迦<sup>キヤ</sup> ○室哩曳<sup>シリエ</sup> ○娑婆訶<sup>ソモコ</sup>

朝課

(觀音經)

●●●▲妙法蓮華經觀世音 品第二十五●

●受諸苦惱 ●一心称名 ●南無觀世

音菩薩 ●巍々如是 ●無盡意菩薩

白仏言 ●應以仏身得度者

(2ウ)

○一分奉釈迦牟尼仏 ○無盡意 ●世尊

妙相具 ●發大清淨願 ●衆怨悉退

●爾時地持菩薩 ●皆發無等々 ●三藐

三菩提心

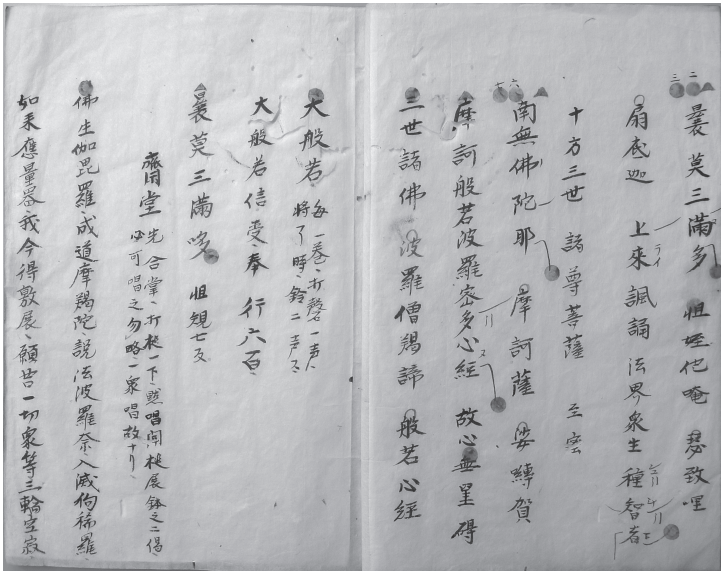
(大悲呪)

▲南無喝囉怛那 ●地唎瑟尼 ●那羅謹

○悉殿都 ○跋陀那娑婆訶

(3オ)

(3丁ウ)



(4丁才)

(消災呪)

● 三 曩莫三滿多 ● 恒姪他唵 ○ 毘致哩

○ 扇底迦 上來諷誦 法界衆生 種智者

十方三世 諸尊菩薩 至蜜

(仏陀神呪)

● 七六 南無仏陀耶 ○ 摩訶薩 ○ 婆嚩賀

(般若心經)

▲ 摩訶般若波羅密多心經 ● 故心 ● 無罣碍

● 三世諸仏 ○ 波羅僧羯諦 ○ 般若心經

(3ウ)

● 大般若 每一卷打磬一聲

大般若信受 奉行六百

▲ 曩莫三滿哆 ● 恒規七反 (消災呪)

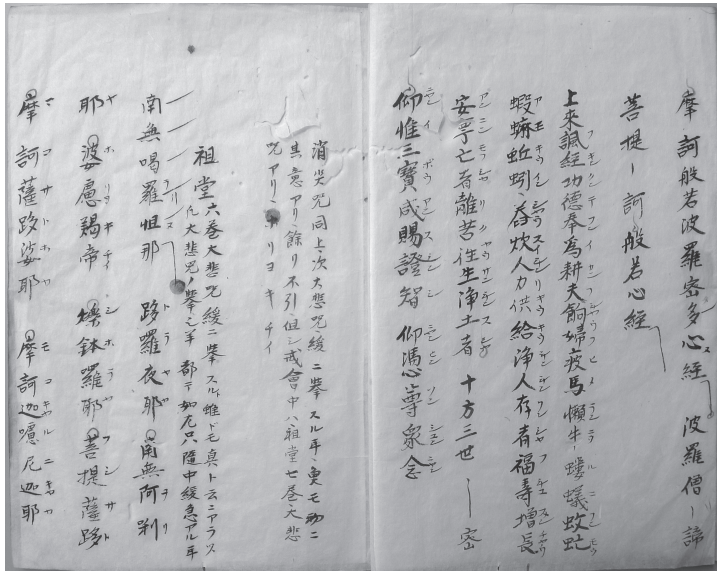
齋堂 先合掌打槌一下默唱開槌展鉢之二偈  
必可唱之勿略一衆唱故ナリ

● 仏生伽毘羅 成道摩羯陀 說法波羅奈 入滅拘稀羅

如來應量器 我今得敷展 願共一切衆 等三輪究至寂 (4才)



(4丁ウ)



(5丁オ)

○摩訶般若波羅密多心經 一 波羅僧一諦

菩提一訶般若心經

上來諷經功德奉為耕夫餉婦疲馬懶牛蟻蟻蚊虻  
蝦蟇蚯蚓春炊人力供給淨人存者福壽增長  
安寧亡者離苦往生淨土者 十方三世 一密  
仰惟三寶 咸賜証智 仰憑尊衆念

(4ウ)

消災呪同上 次大悲呪 緩二攀スル耳 魚毛初二  
其意アリ 餘リ不引 但シ戒會中ハ祖堂七卷大悲  
呪アリ ●ホリヨキチイ

(大悲呪)

祖堂 六卷大悲呪緩二攀スル雖トモ真ト云ニアラズ  
凡大悲呪ノ攀也羊 都テ如左頁隨中緩急アル耳

南無喝囉怛那 ● 踰囉夜耶 南無阿唎  
耶 ○ 婆慮羯帝 ● 燦鉢囉耶 ○ 菩提薩陞  
摩訶薩陞娑耶 ○ 摩訶迦囉尼迦耶

(5オ)

(5丁ウ)

唵薩 回向 福壽無量 諸緣吉利者

十方三世 般若波羅蜜

舉蓮經 若略法花 舉大悲呪則 不亦密之聲

轉大般若 朝課罷或八午時打磬都下同心經三卷 次恒規八消災呪七反施主祈禱任時差定

攀心經 觀自在菩薩行深 般若波羅

蜜多 波羅僧羯諦 般若心經

(6丁才)

清淨法身毘盧舍那佛 圓滿報身盧遮那佛

千百億化身釋迦牟尼佛 當來下生彌勒尊佛

十方三世一切 諸佛 大乘妙法蓮華經

大聖文殊師利菩薩 大行普賢菩薩

大悲觀世音 菩薩 諸尊菩薩摩訶薩

摩訶般若波羅密

唵薩 回向 福壽無量 諸緣吉利者

十方三世 般若波羅蜜

▲舉蓮經 若略法花 舉大悲呪則 不亦密之聲

轉大般若 朝課罷或八午時打磬都下同心經三卷 次恒規八消災呪七反施主祈禱任時差定

●攀心經 觀自在菩薩行深 ●般若波羅

蜜多 ○波羅僧羯諦 ○般若心經

6 清淨法身毘盧舍那佛 9 圓滿報身盧遮那佛

9 千百億化身釋迦牟尼佛 當來下生彌勒尊佛

○十方三世一切 諸佛 ○大乘妙法蓮華經

○大聖文殊師利菩薩 ○大行普賢菩薩

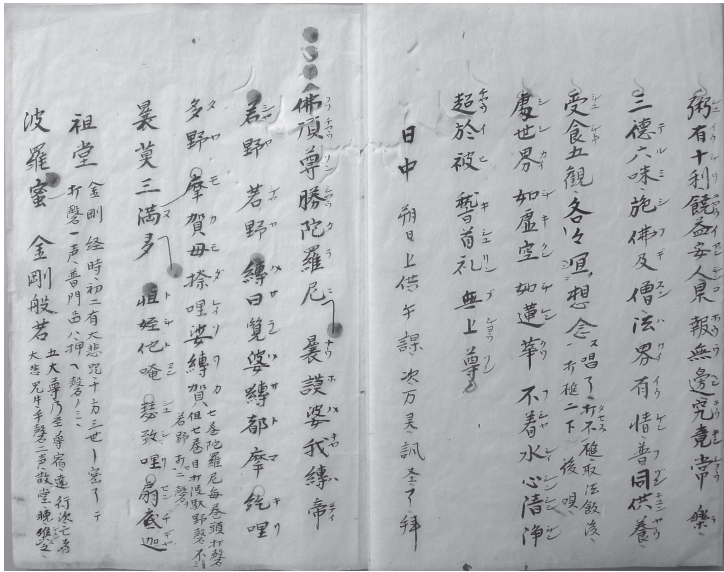
○大悲觀世音 菩薩 ○諸尊菩薩摩訶薩

○摩訶般若波羅密

(5ウ)

(6才)

(6丁ウ)



(7丁オ)

術有十利饒益安人果報無邊究竟常樂  
 三徳六味施佛及僧法界有情普同供養  
 受食五觀各々理想念ス唱了打不槌取法飯後  
 處世界如虛空如蓮華不着水心清淨  
 超於被稽首禮無上尊ノ

日中 朔日上供午課次万靈誦了拜

佛頂尊勝陀羅尼 曩謨婆我縛帝  
 若野 若野 縛日覽婆囉都摩 紇哩  
 多野 摩賀母捺哩婆縛賀但七卷目打沒駄野聲不  
 曩莫三滿多 怛姪他唵 瑟致哩 扇底迦  
 祖堂 金剛經時初二有大悲呪十方三世一密了テ  
 打磬一声普門品八押へ聲ノミ  
 波羅蜜 金剛般若 五大尊乃至尊宿邊行次七者  
 大悲呪トキ手磬二声散堂晚準了之

(仏頂尊勝陀羅尼)

日中 朔日上供午課次万靈誦了拜

(6ウ)

粥有十利 饒益安人 果報無邊 究竟常樂  
 三徳六味 施仏及僧 法界有情 普同供養  
 受食五觀 各々理想 念ス唱了打不槌取法飯後  
 處世界如 虛空如蓮 華不着水 心清淨  
 超於被稽 首禮無上 尊ノ

●●●▲●●●  
●●●▲●●●  
●●●▲●●●

● 若野 若野 縛日覽婆囉都摩 紇哩

● 多野 摩賀母捺哩婆縛賀但七卷目打沒駄野聲不

(消災呪)

● 曩莫三滿多 ● 怛姪他唵 ○ 瑟致哩 ○ 扇底迦

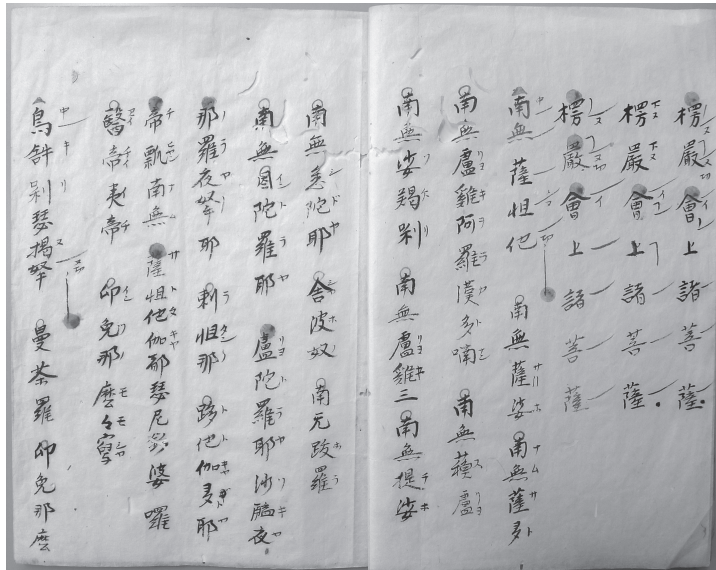
● 祖堂 金剛經時初二有大悲呪十方三世一密了テ  
打磬一声普門品八押へ聲ノミ

● 波羅蜜 金剛般若 五大尊乃至尊宿邊行次七者  
大悲呪トキ手磬二声散堂晚準了之

(7オ)



(8丁ウ)



(9丁オ)

●楞嚴●會上 諸菩薩

楞嚴●會上 諸菩薩

●楞●嚴●會上 諸菩薩

▲南無薩怛他 ●南無薩娑 ○南無薩多

○南無盧雞阿羅漢多喃 ○南無極盧

○南無娑羯唎 ○南無盧雞三 ○南無提娑

○南無悉陀耶 ○舍波奴 ○南無跋羅

○南無○因陀羅耶 ●盧陀羅耶沙臨夜

●那羅夜拏耶 ○剌怛那 ○踰他伽多耶

●帝瓢南無 ●薩怛他伽都瑟尼釤婆 囉

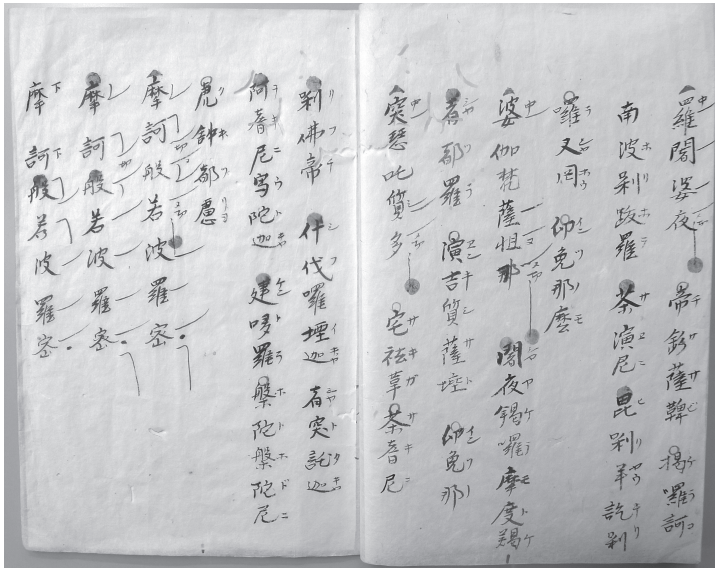
○醫帝夷帝 ○印免那 麼々々写

▲烏訶唎瑟揭拏 ●曼荼羅 ○印免那麼

(8ウ)

(9オ)

(9丁ウ)



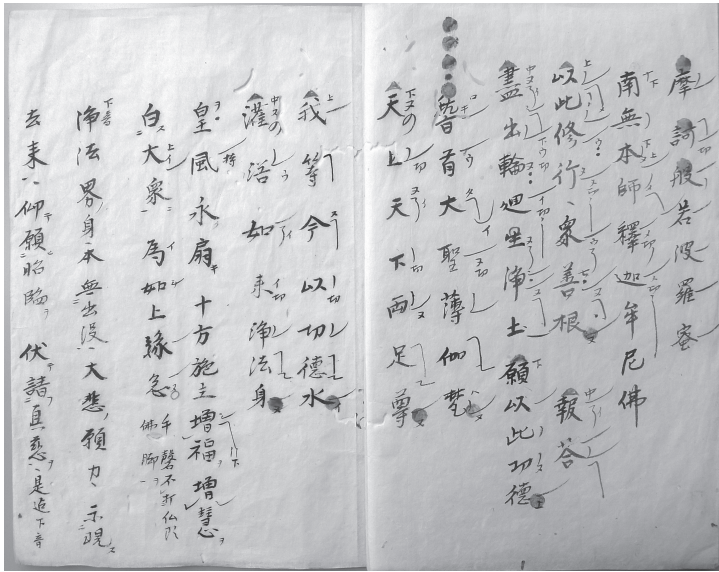
(10丁オ)

- ▲羅闍婆夜 ● ○帝鈇薩鞞 ○揭囉訶
- ▲南波喇跋羅 ● 茶演尼 ● 毘喇羊訖喇
- 囉叉罔 ○印免那麼
- ▲婆伽梵薩怛那 ● ○闍夜羯囉摩度羯
- ▲者都羅 ● 演吉質薩埵 ○印免那
- ▲突瑟吒質多 ● ○宅祛革 ○茶耆尼
- 唎仏帝 ● 什代囉埋迦 ● 耆突託迦
- 阿耆尼写陀迦 ● 建哆羅 ● 槃陀槃陀尼
- 虎鉞都慮
- ▲摩訶般若波羅密
- 摩訶般若波羅密
- 摩訶般若波羅密

(9ウ)

(10オ)

(10丁ウ)



(11丁オ)

●摩訶●般若波羅蜜  
南無本師釈迦牟尼佛

(回向偈)

▲以此修行衆善根 ● ▲報答

▲盡出輪廻○生淨土 ● ▲願以此功德 ●

(灌仏偈)

●●●●●  
▲稽首大聖薄伽梵 ●

▲天上天下兩足尊 ●

(10ウ)

▲我等今以功德水 ●●

▲灌浴如來淨法身 ●

皇風永扇 ● 十方施主 ● 增福增慧 ●

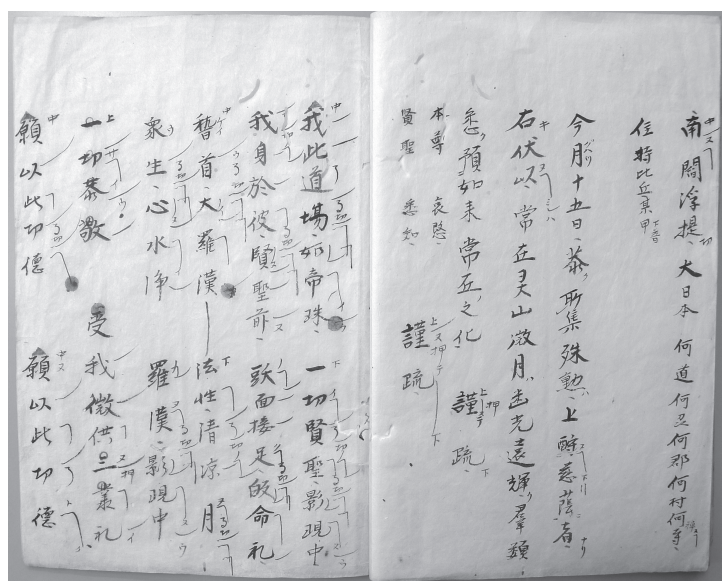
白大衆 ● 為如上緣念 ● 手不 ● 打 ● 仏 ● 頭 ●

淨法界身 ● 本無出沒 ● 大悲願力 ● 示現 ●

去來 ● 仰願昭臨 ● 伏請真慈 ● 是迄 ●

(11オ)

(11丁ウ)



(12丁才)

南閻浮提<sup>ミナモト</sup> 大日本 何道何州何郡何村何寺<sup>ニ</sup>  
 住持比丘某甲<sup>ト</sup>

今月十五日 茶所集殊勲<sup>カハツ</sup> 上酬慈蔭<sup>ウ</sup> 者ナリ<sup>ニ</sup>  
 右伏以<sup>マキ</sup> 常在<sup>ミ</sup> 靈山微月<sup>ハ</sup> 幽光遠輝<sup>ク</sup> 群類<sup>ヲ</sup>  
 悉<sup>ク</sup> 預<sup>テ</sup> 如來常在<sup>ノ</sup> 之化<sup>ニ</sup> 謹<sup>テ</sup> 疏<sup>ス</sup>  
 本尊 哀懇  
 賢聖 悉知 謹疏

我此道場如帝珠<sup>ニ</sup> 一切賢聖影現中<sup>ニ</sup>  
 我身於彼賢聖前<sup>ニ</sup> 頭面接足歸命礼<sup>ス</sup>  
 稽首大羅漢<sup>ト</sup> 法性清涼<sup>ノ</sup> 月<sup>ヲ</sup>  
 衆生心水淨<sup>ク</sup> 羅漢影現中<sup>ニ</sup>  
 一切恭敬<sup>ス</sup> 受我微供<sup>ト</sup> 三叢礼<sup>ス</sup>  
 願以此功德<sup>ヲ</sup> 願以此功德<sup>ヲ</sup>

南閻浮提 大日本 何道何州何郡何村何寺<sup>ニ</sup>  
 住持比丘某甲<sup>ト</sup>

今月十五日 恭<sup>ク</sup> 所<sup>レ</sup> 集殊勲<sup>ハ</sup> 上酬<sup>ニ</sup> 慈蔭<sup>ニ</sup> 者<sup>ナリ</sup>  
 右<sup>キ</sup> 伏<sup>以</sup> <sup>ミ</sup> 常<sup>ニ</sup> 在<sup>ル</sup> 靈山微月<sup>ハ</sup> 幽光遠輝<sup>ク</sup> 群類<sup>ヲ</sup>  
 悉<sup>ク</sup> 預<sup>テ</sup> 如來常在<sup>ノ</sup> 之化<sup>ニ</sup> 謹<sup>テ</sup> 疏<sup>ス</sup>  
 本尊 哀懇  
 賢聖 悉知 謹疏

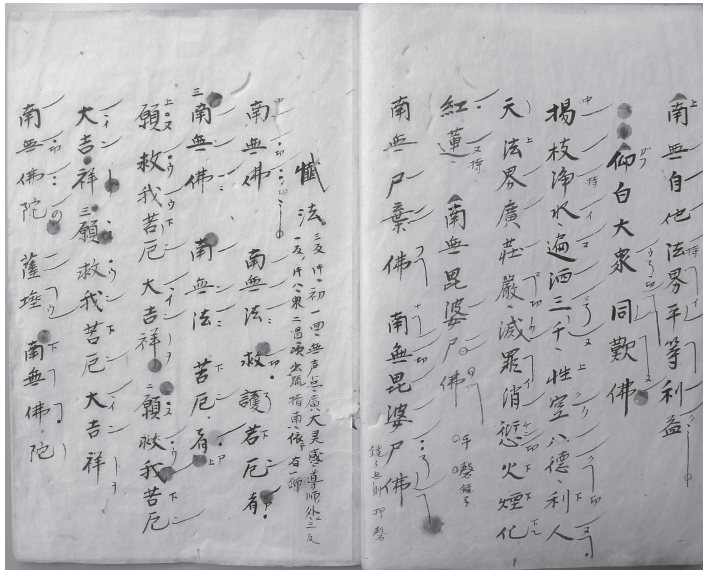
▲我此道場如帝珠● 一切賢聖影現中  
 ▲我身於彼賢聖前 頭面接足歸命礼  
 ●稽首大羅漢 法性清涼月  
 ●衆生心水淨 羅漢影現中  
 ●一切恭敬 受我微供三叢礼  
 ▲願以此功德 ● 願以此功德

(11ウ)

(12才)



(12丁ウ)



(13丁才)

▲南無自他 法界平等利益。

●●▲仰白大衆 同歎仏。

揚枝淨水 遍洒三千 性空八德 利人

天法界広莊嚴 滅罪消愆火煙化

紅蓮 ▲南無毘婆尸仏。

南無尸棄仏 南無毘婆尸仏

手髻鏡子  
鏡子無明神器

(12ウ)

懺法 三反トキ初一回無声点仏大靈感導師外三反  
一反トキ八衆一唱次出疏指南依有一師

南無佛 南無法 救護苦厄者

南無佛 南無法 苦厄者

願救我苦厄 大吉祥 願救我苦厄

大吉祥 願救我苦厄 大吉祥

南無佛 南無法 苦厄者

南無佛 南無法 苦厄者

懺法 三反トキ初一回無声点仏大靈感導師外三反  
一反トキ八衆一唱次出疏指南依有一師

●南無佛 南無法 救護苦厄者

○南無佛 南無法 苦厄者

●願救我苦厄 大吉祥 ●願救我苦厄

●大吉祥 ●願救我苦厄 大吉祥

●南無佛 南無法 苦厄者

●南無佛 南無法 苦厄者

(13才)

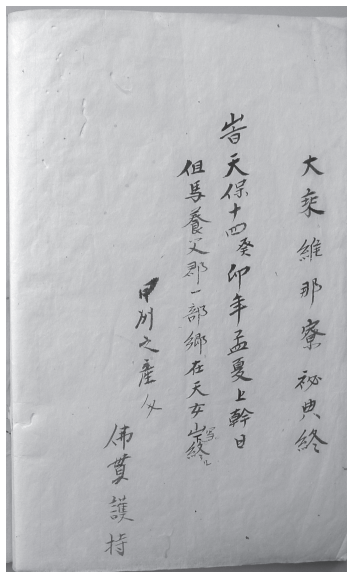


(裏表紙)



佛貫用

(14丁ウ)



大乘維那寮秘典 終

天保十四年卯年孟夏上幹日

但馬養父郡一部郷在天女山

甲州之産人

佛貫護持

大乘維那寮秘典 終

天保十四年卯年孟夏上幹日

但馬養父郡一部郷在天女山

甲州之産人

佛貫護持

(14ウ)



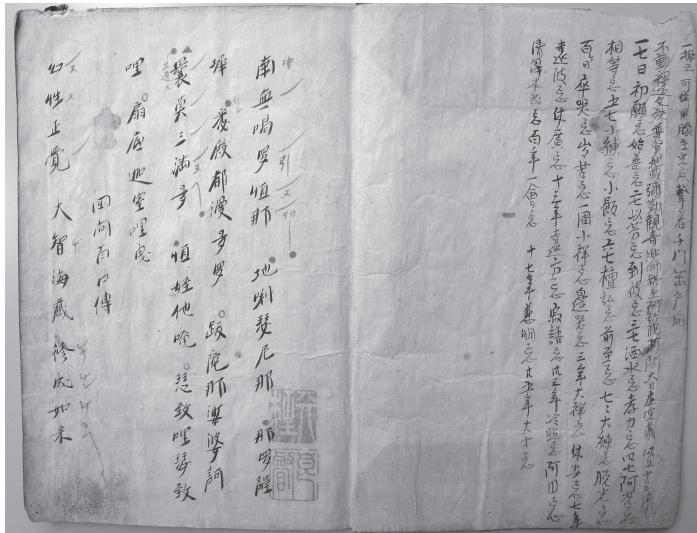
(表紙)

『大乘寺回向帳』

(仮)

(表紙)

(表紙裏)



(1丁才)

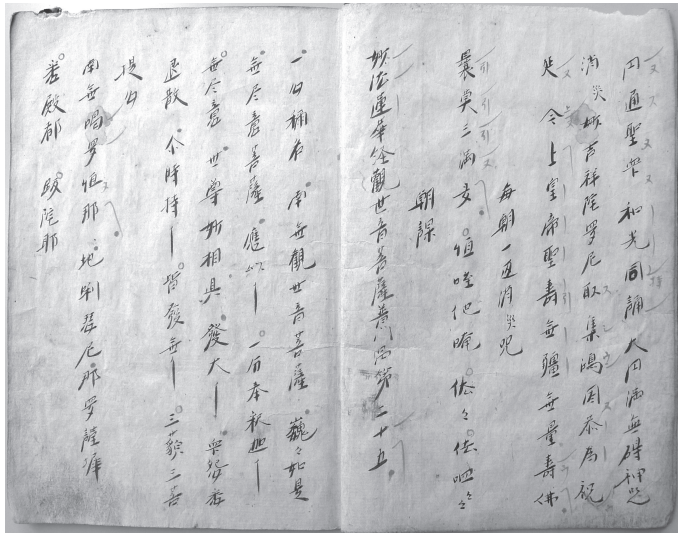
一掉云可憐黑膝生光底擊着千門万户開  
 不動釈迦文殊普賢地藏弥勒觀音藥師勢至阿彌陀阿閼大日虚空蔵以上十三仏也  
 一七月初願忌始善忌一七以芳忌到彼忌三七酒水忌孝力忌四七阿況忌  
 相等忌五七小練忌小飯忌六七檀弘忌前至忌七々大練忌脱光忌  
 百ヶ日卒哭忌出苦忌一周小祥忌辺哭忌三年大祥忌休安忌七年  
 遠波忌休広忌十三年遠方忌寂語忌卅三年冷照忌阿巴忌  
 清浄本然忌百年一会忌 十七年慈明忌廿五年大土忌

南無喝羅怛那 ● 地唎瑟尼那 ● 那羅謹  
 埤 ● 悉殿都漫多羅 ○ 跋陀耶娑婆訶  
 ● 曩莫三滴多 ● 怛姪陀唵 ○ 瑟致哩瑟致  
 哩 ○ 扇底迦室哩曳  
 回向 有口伝  
 心性正覚 大智海蔵 修成如来

(1才)

(表紙裏)

(1丁ウ)



(2丁才)

円通聖衆 和光同誦 大円満無碍神呪  
 消災妙吉祥陀羅尼 取集 鴻因恭為祝  
 延 今上皇帝聖壽無疆無量寿仏

每朝一返消災呪

曩莫三満多 ● 怛唵他唵 ○ 佉々 ○ 佉四

朝課

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五 ●

(1ウ)

● 一心称名 ● 南無観世音菩薩 ● 巍々如是

● 無尽意菩薩 ● 応以一一 ○ 一分奉釈迦一一

● 無尽意 ● 世尊妙相具 ● 発大一一 ● 衆怨悉

退散 ● 尔時持一一 ○ 皆発無一一 ○ 三藐三菩

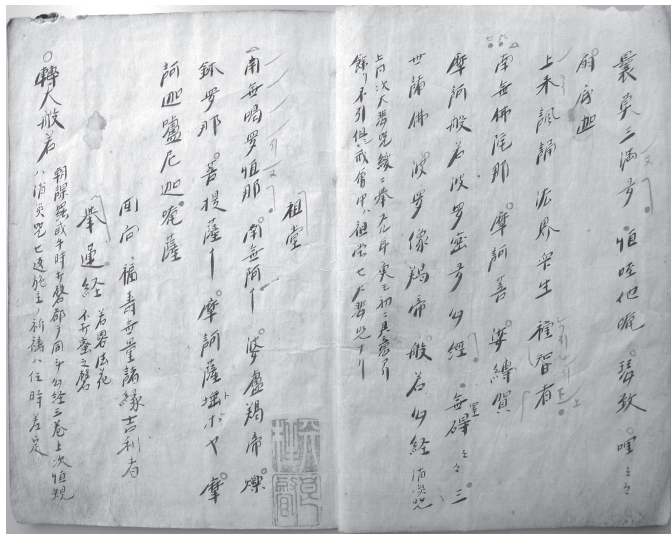
提心

南無喝囉怛那 ● 地唎瑟尼 ● 那羅謹堀

悉殿都 ● 跋陀耶

(2才)

(2丁ウ)



(3丁オ)

曩莫三滿多 ● 怛唵他唵 ○ 瑟致 ○ 哩々々

扇底迦

上来諷誦 法界衆生 種智者 ●

南無仏陀那 ○ 摩訶菩 ○ 娑縛賀

摩訶般若波羅密多心經 ● 無碍 ● 三

世諸仏 ○ 波羅像羯諦 ○ 般若心經 消災呪

上同 次大悲呪 緩ニ拳スル耳 魚毛初二其意アリ

餘リ不引 但戒會中祖堂七大悲呪ナリ

祖堂

南無喝羅怛那 ● 南無阿一 ○ 婆盧羯帝 ○ 爍

鉢羅那 ○ 菩提薩一 ○ 摩訶薩埵ボヤ ○ 摩

訶迦嚧尼迦 ● 唵薩

回向 福寿無量 諸縁吉利者

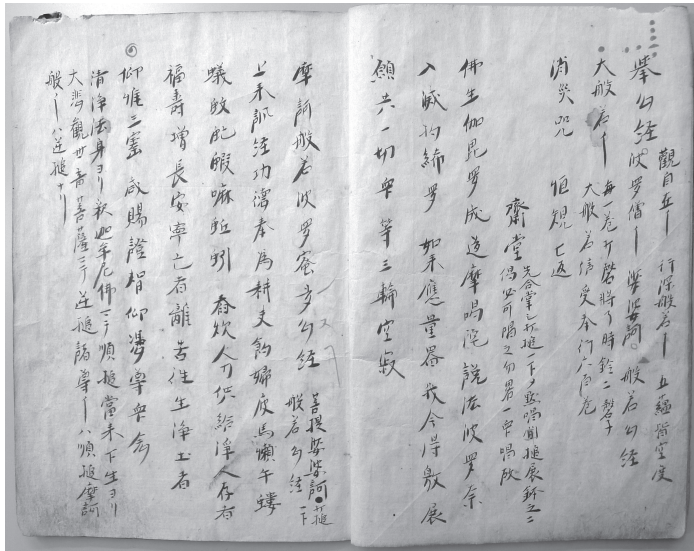
拳蓮經 若略法花 不打鐘之響

轉大般若 朝課罷或午時打磬都子同シ心經三卷上次恒規 八消災呪七返施主人祈禱八任時差定

(3才)

(2ウ)

(3丁ウ)



(4丁才)

●●●●●  
 観自在—— 行深般若—— 五蘊皆空度  
 波羅僧—— 娑婆訶。▲般若心經

●大般若—— 每一卷打磬了時鈴二聲子  
 大般若信受奉行六百卷

消災呪 恒規七返

齋堂 先念摩訶打槌一下して黙唱聞槌展鉢之二  
 偈必可唱之勿略一衆唱故

仏生迦毘羅 成道摩喝陀 說法波羅奈  
 入滅拘稀羅 如來心量器 我今得敷展  
 願共一切衆 等三輪空寂

(3ウ)

摩訶般若波羅密多心經 菩提娑婆訶●打槌  
般若心經

上來諷經功德奉為耕夫餉婦疲馬懶牛虻  
 蟻蚊蛇蝦嘛蚯蚓春炊人力供給淨人存者  
 福壽增長安寧亡者苦往生淨土者

6 仰惟三宝 咸賜証智 仰憑尊衆念

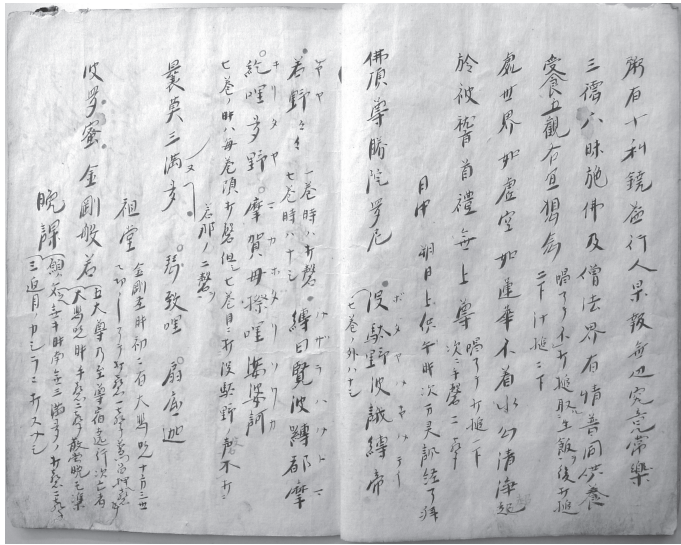
清淨法身ヨリ釈迦牟尼仏マテ順槌 当来下生ヨリ  
 大悲觀世音菩薩マテ逆槌 諸尊一八順槌 摩訶

般一八逆槌ナリ

(4才)



(3丁ウ)



(4丁才)

粥有十利 饒益行人 果報無辺 究竟常樂

三德六昧 施仏及僧 法界有情 普同供養

受食五觀各宜想念 唱了テ不打槌 取生飯 後打槌

処世界如虚空 如蓮華不着水 心清淨超

於彼 稽首礼無上尊 唱了テ打槌一下 次手聲

日中 朔日上供午時次万靈諷經了拜

仏頂尊勝陀羅尼 ● 沒駄野波識縛帝 ボタヤバキヤバテイ

七卷ノ外ハナシ

(4ウ)

● 若野 シヤヤ 一巻時ハ打磬 ● 縛日寛波嚩都摩 バザラハバトマ

● 紇哩多野 キリタヤ 七巻時ハナシ ● 摩賀母捺哩娑婆訶 マカホタリソワカ

七巻ノ時ハ每巻頭打磬 但シ七巻目ニ打テ沒駄野ノ磬 不レ打

若那ノ二聲

曩莫三滿多 ● 瑟致哩 ○ 扇底迦

祖堂 金剛經時 初二有大悲呪、十方三世

波羅蜜 ● 金剛般若 一切了テ打磬二声 普門品押磬耳

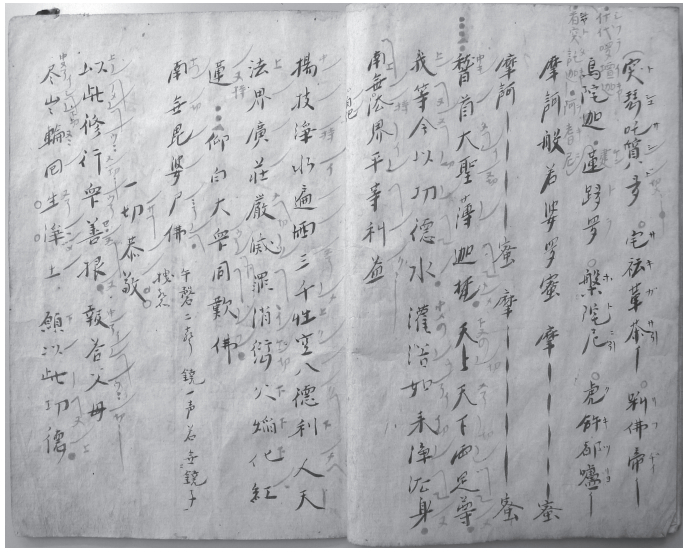
晚課 願文無キ時 南無三滿多ノ打磬二声

(5才)





(7丁ウ)



(8丁才)

トシユサシンド ○サキガサ  
突瑟吒質多 ○宅祛革荼一 ○唎仏帝一

烏陀迦 ○シツライキヤ ●煮突託迦 ○阿耨尼 ●建跋羅 ○ホトニ  
○クキツリヨ  
虎許都嚩

摩訶般若波羅蜜 摩一〇〇〇〇〇〇蜜

摩訶一〇〇〇〇〇〇蜜 摩一〇〇〇〇〇〇〇蜜

稽首大聖薄伽梵 天上天下兩足尊

我等今以功德水 灌浴如來淨法身

南無法界平等利益

(7ウ)

揚枝淨水遍洒三千性空八德利 人天

法界廣莊嚴滅罪消愆火焰化紅

蓮 ●●▲仰自大衆同歎仏

南無毘婆尸仏 ●押聲二声鏡一声若無鏡子

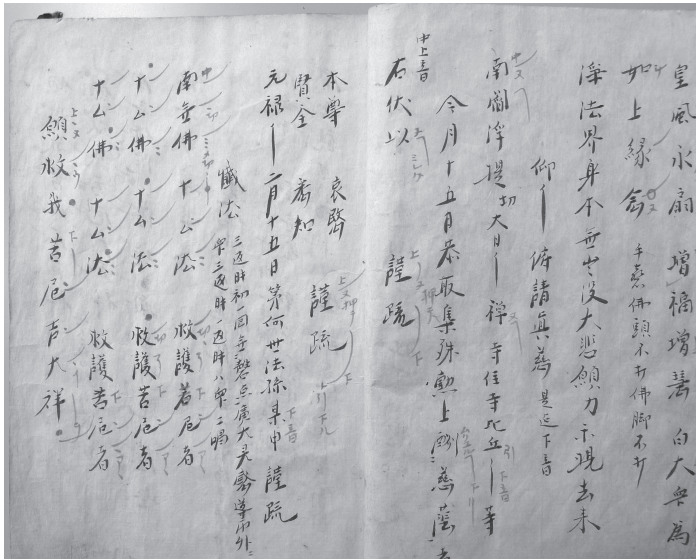
一切恭敬

以此修行衆善根 報答父母

盡出輪回生淨土 願以此功德

(8才)

(8丁ウ)



(9丁才)

皇風永ク扇<sup>キ</sup> 増<sup>レ</sup>福増慧 白大衆為  
如上縁念 手磐仏頭不打仏脚不打

淨法界身 本無出沒 大悲願力 示現去來

仰<sup>一</sup> 俯請真慈 是定下音

南閻浮提<sup>切</sup> 大日<sup>一</sup> 禪 寺住寺比丘<sup>下音</sup> 等

今月十五日 恭取集殊勲 上酬<sup>二</sup>慈蔭<sup>一</sup>者

右伏以 謹疏

本尊 哀愍

賢聖 悉知 謹疏

元祿<sup>一</sup>二月十五日 第何世法孫某甲<sup>下音</sup> 謹疏

懺法 三反時一回 無警息 衆三反時一返時入衆二唱 広大靈感 導師外

南無仏 ナム法 救護苦厄者

ナム仏 ナム法 救護苦厄者

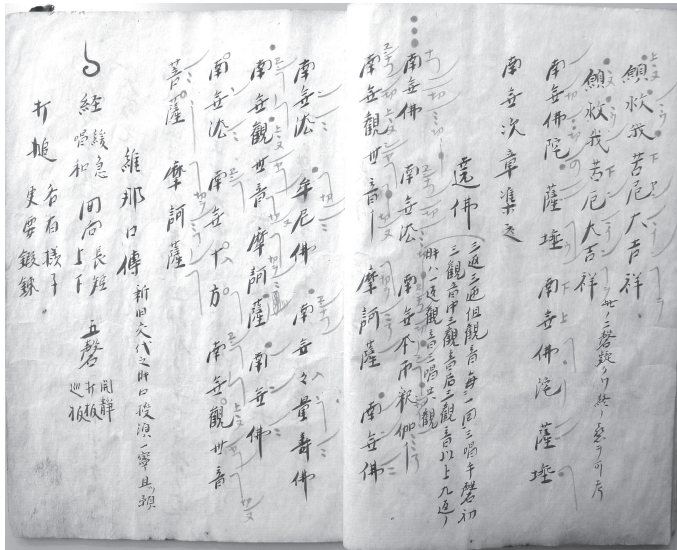
ナム仏 ナム法 救護苦厄者

願救我苦厄吉大祥

(9才)

(8ウ)

(9丁ウ)



(10丁才)

願●救●我●苦●厄●大●吉●祥  
此ノ二聲疑クワ終ノ聲ヲ可考

願●救●我●苦●厄●大●吉●祥

南●無●仏●陀●薩●埵●南●無●仏●陀●薩●埵

南●無●次●章●準●之

遶●仏  
三反三匝 但觀音 每一回三唱 手聲初  
時八一反觀音三唱 共觀 以上九返ノ

●南●無●仏●南●無●法●南●無●本●師●積●伽●一

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●仏

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

南●無●觀●世●音●一●摩●訶●薩●南●無●佛

打●槌  
各●有●樣●子  
更●要●鍛●鍊

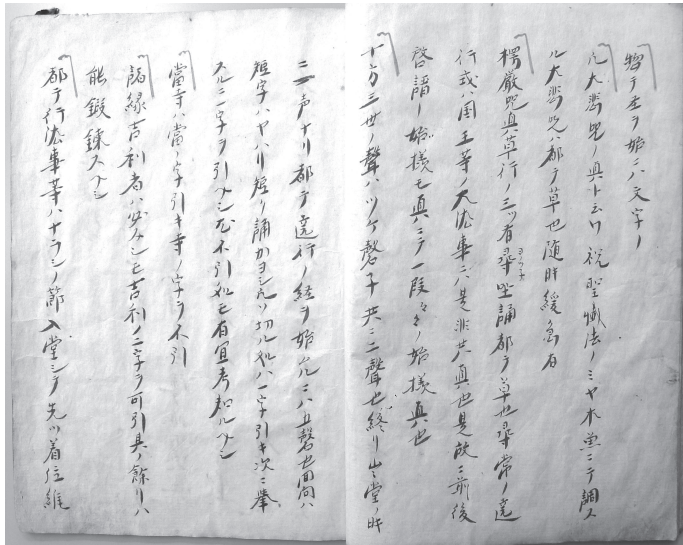
經  
唱和 緩急 回向 長短 五聲 開靜 打板 巡板

維●那●口●傳  
新●旧●交●代●之●時 口授須一寧且預

(10才)

(9ウ)

(10丁ウ)



(11丁オ)

〔惣テ経ヲ始ニハ文字ノ〕

〔凡大悲呪ノ真ト云ワ祝聖懺法ノミヤ木魚ニテ調スル大悲呪ハ都テ草也隨時緩急有〕

〔楞嚴呪真草行ノ三ツ有尋坐誦都テ草也尋常ノ遶〕

行式ハ国王等ノ大法事ニハ是非共真也故ニ前後〕

啓譜ノ始ハ様モ真ニテ一段々々ノ始様真也〕

〔十方三世ノ声ハツケ磬子共ニ二声也終リ出堂ノ時〕 (10ウ)

ニ一声ナリ都テ遶行ノ経ヲ始ムルニハ五磬也回向ハ〕

短字ハヤハリ短ク誦ガヨシ凡ソ切ル処ハ一字引キ次ニ挙〕

スルニ二字ヲ引ベシ尤不引処モ有宜考知ルベシ〕

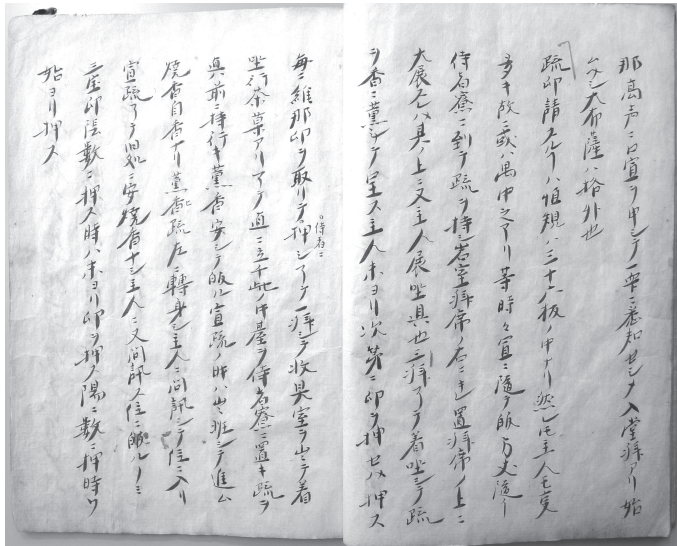
〔当寺ハ当ノ寺引キ寺ノ寺ヲ不引〕

〔諸縁吉利者ハ必ズシモ吉利ノ二字ヲ可引其ノ餘リハ〕

能鍛鍊スベシ〕

〔都テ行法事等ハナラシノ節入堂シテ先ツ着位維〕 (11オ)

(11丁ウ)



那高声ニ口宣ヲ申シテ一衆ニ悉知セシメ入堂拜アリ始  
ムベシ大布薩ハ格外也

〔疏印請スルコトハ恒規ハ三十六板ノ中ナリ然レトモ主人モ事

多キ故ニ或ハ禺中之アリ等時々宜ニ随テ帰方丈随イ

行者寮ニ到テ疏ヲ持シ岩室拜席ノ右ニ送置拜席ノ上ニ

大展スレバ其ノ上ニ又主人展坐具也三拜了テ着座シテ疏

ヲ香ニ薫ジテ呈ス主人末ヨリ次第第二印ヲ押セバ押ス

ヲ香ニ薫ジテ呈ス主人末ヨリ次第第二印ヲ押セバ押ス

毎ニ維那印ヲ取リテ押シテ一拜ヲ收具室ヲ出テ着

坐行茶菓アリ了テ直ニ立チ此ノトキ台ヲ侍者寮ニ置キ疏ヲ

真前ニ持行キ薫香安シテ歸ル宣疏ノ時ハ出班シテ進ム

焼香自香ナリ薫香疏左ニ轉身シ主人ニ問訊シテ位ニ入り

宣疏了テ旧処ニ安焼香ナシ主人ニ又問訊ス位ニ歸ルノミ

三宝印陰數ニ押ス時ハ末ヨリ印ヲ押ス陽ニ數ニ押時ヲ

(12丁オ)

那高声ニ口宣ヲ申シテ一衆ニ悉知セシメ入堂拜アリ始  
ムベシ大布薩ハ格外也

〔疏印請スルコトハ恒規ハ三十六板ノ中ナリ然レトモ主人モ事  
多キ故ニ或ハ禺中之アリ等時々宜ニ随テ帰方丈随イ  
行者寮ニ到テ疏ヲ持シ岩室拜席ノ右ニ送置拜席ノ上ニ  
大展スレバ其ノ上ニ又主人展坐具也三拜了テ着座シテ疏  
ヲ香ニ薫ジテ呈ス主人末ヨリ次第第二印ヲ押セバ押ス

(11ウ)

毎ニ維那印ヲ取リテ押シ了テ一拜シテ收具室ヲ出テ着  
坐行茶菓アリ了テ直ニ立チ此ノトキ台ヲ侍者寮ニ置キ疏ヲ  
真前ニ持行キ薫香安シテ歸ル宣疏ノ時ハ出班シテ進ム  
焼香自香ナリ薫香疏左ニ轉身シ主人ニ問訊シテ位ニ入り  
宣疏了テ旧処ニ安焼香ナシ主人ニ又問訊ス位ニ歸ルノミ  
三宝印陰數ニ押ス時ハ末ヨリ印ヲ押ス陽ニ數ニ押時ヲ  
始ヨリ押ス

(12オ)



(12丁ウ)

座元上座大禪々門居士庵主等ハ覺靈ト唱ベシ大禪定  
 尼大姉等ハ淑靈ト唱ベシ信女信士等皆ナ靈位ト唱ベシ  
 座元モ侍法ノ人ニハ尊宿回向ヲ用ユベシ未伝法セザル  
 長老ヨリ以下山居ノ和尚上座等ニハ亡者回向ヲ通用スル也  
 尊宿乃至亡者ノ名字ヲ宋音等ニテ誦スベカラス須ク呉  
 音ニテ誦スベシ禺中懺法等ノ修行スルトキワ午時ノ回向ニ  
 同音ノ二字ヲ除クベシ

座元上座大禪々門居士庵主等ハ覺靈ト唱ベシ大禪定  
 尼大姉等ハ淑靈ト唱ベシ信女信士等皆ナ靈位ト唱ベシ  
 座元ニモ伝法ノ人ニハ尊宿回向ヲ用ユベシ未伝法セザル  
 長老ヨリ以下山居ノ和尚上座等ニハ亡者回向ヲ通用スル也  
 尊宿乃至亡者ノ名字ヲ宋音等ニテ誦スベカラス須ク呉  
 音ニテ誦スベシ禺中懺法等ノ修行スルトキワ午時ノ回向ニ  
 同音ノ二字ヲ除クベシ

(12ウ)

(13丁オ)

為亡者普門品ヲ誦スル則回向ニ觀音一品ト入ルベシ  
 祈禱ノ時ハ当塗王經ト入ル也  
 歎仏及諸一礼讚ノ音節大磬手磬總テ以為則  
 凡歎仏ハ回向ノ文ノミ宋音ニシテ其餘ワ皆吳音也  
 主讚ノ人大衆ニ能ク断ルベシ且ツ歎仏ニ無鏡子時ワ  
 其ノ代リニ大磬一声宛可打之  
 散華莊嚴已下大磬三声ト有ル所ハ都テ栴樹林テハ於

為亡者普門品ヲ誦スル則回向ニ觀音一品ト入ルベシ  
 祈禱ノ時ハ当塗王經ト入ル也  
 歎仏及諸一礼讚ノ音節大磬手磬總テ以為則  
 凡歎仏ハ回向ノ文ノミ宋音ニシテ其餘ワ皆吳音也  
 主讚ノ人大衆ニ能ク断ルベシ且ツ歎仏ニ無鏡子時ワ  
 其ノ代リニ大磬一声宛可打之  
 散華莊嚴已下大磬三声ト有ル所ハ都テ栴樹林テハ於

(13オ)

(13丁ウ)

打磬ニ声シテ押拳スル也  
 印疏ノ法ハ諱ヲ書シテテ未ヨリ印ヲ押シ次第第二前ニ至ル也凡ソ  
 涅槃忌祖師忌等ニハ陽數ニシテ三印五印也可漏モ同  
 シ誕生会成道会楞嚴会等ニハ陰數ニシテ四印二印ナリ  
 疏印ノ初維那ト主人ト同時ニ展具三拜シテ具上ニテ押印シ  
 了テ一拜シテ具ヲ収メテ行菓案アリ次ニ維那自ヲ持シテ真前ノ  
 台上ニ奉安シテ歸堂ス

(13ウ)

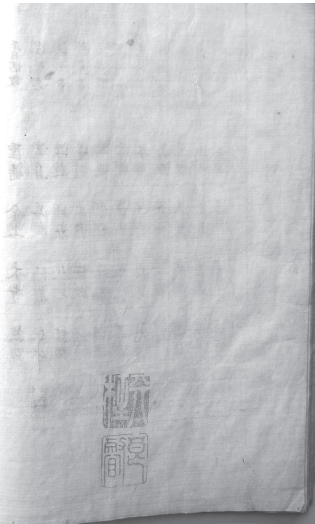
正月滿散	聖壽	今上	本寺	謹疏
涅槃忌	法身	浮提	師積	伏以
誕生會	浮提	師積	伏以	本寺
楞嚴會	浮提	師積	伏以	謹疏
同滿散	開關	以誦	謹疏	龍天
永平忌	浮提	平大	永平開山	旁參
成道會	本國	乳之	惠日	本寺
大勝之印	山門	元正	皇道	一人
	元亨	右合山	元亨	本寺
				合山 三朝

(14丁オ)

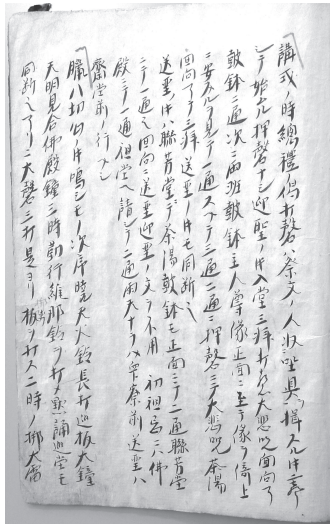
正月滿散	聖壽	今上	本寺	謹疏
涅槃忌	法身	浮提	師積	伏以
誕生會	浮提	師積	伏以	本寺
楞嚴會	浮提	右讀	謹疏	龍天
同滿散	開關	以誦	謹疏	龍天
永平忌	浮提	平大	永平開山	旁參
成道會	本國	乳之	惠日	本寺
除夜龍天	浮提	年窮	伏惟	護法
大勝之印	山門	元正	皇道	一人
	元亨	右合山	元亨	本寺
				合山 三朝

(14オ)

(14丁ウ)



(14ウ)



(15丁才)

講式ノ時総禮ノ偈打磬ハ祭文ノ人収ニ坐具ヲ搦スルトキニ声  
 シテ始ムル押磬ナシ迎聖ノトキ入堂ニ三拜打磬大悲呪回向了  
 鼓鉢ニ通次ニ兩班鼓鉢主人尊像正面ニ至テ像ヲ倚上  
 ニ安スルヲ見テ一通スベテ三通ニ通ニ押磬ニテ大悲呪茶湯  
 回向了テ三拜送聖ノトキモ同断也  
 送聖ノトキハ聯芳堂ニテ茶湯鼓鉢モ正面ニテ三通聯芳堂  
 ニテ一通也回向ニ送聖迎聖ノ文ヲ不用 初祖忌ニハ仏  
 殿ニテ一通祖堂へ請シテ二通雨天ナラバ衆寮前送聖ハ  
 齋堂前ノ行ベシ  
 臘八切心ノトキ鳴シモノ次序曉天火鈴長打巡板大鐘  
 天明見合仏殿鐘三時勤行維那鈴ヲ打シテ默誦齋堂モ  
 同断也了リニ大磬三打是ヨリ柳ヲ打スニ時ノ柳大雷

(15才)

(15丁ウ)

飯屋不着儀乎。平時三下鐘火鈴三十六板齋鐘覺有  
 鼓更點常開定大鐘巡照火鈴七日一晚八開定ナシ曉天ニ移ル也  
 二祖忌モ同ジ事也。平生ノ切心ト常ノ通り只夕昼ノ開定ト三ツ  
 太鼓五磬無キ耳

〔尋常坐禪ノトキ隨坐ノ鳴シ物止靜經行抽解スベキ手磬ナリ  
 臘ハ 獻粥ニ回向ノ文ニ五味粥トイレス 獻粥ト入ル、也汗香ノモノイラズ  
 滅罪消愆ト四八端嚴ノ偈一心歸命ハ一返ノトキニテモ三返宛  
 臨時告偈ノ邊仏三返ナレバ三匝也二匝ハ二返也一返ハ一匝也維那  
 仏名ヲ拳スル内ヤムベカラズ無滯旋遠スルナリ  
 歎仏ノトキヤ邊仏ノ時尸棄仏ニテ普同問訊手磬ヲ打様印<sup>レス</sup>焉  
 南無尸棄仏三匝了トスルトキ迦葉仏ノ手磬同斷ナリ

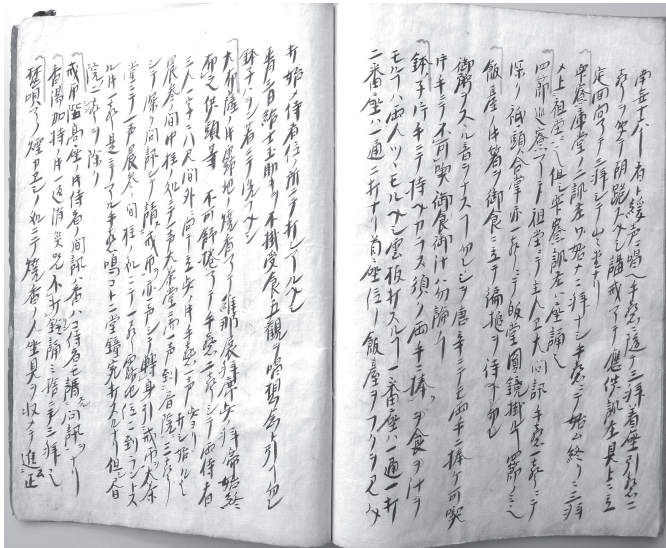
(15ウ)

(16丁オ)

〔禮讚功徳ヲリンサン功德ト唱ベシ文殊普賢觀自在ナリキウウ  
 リクト不可唱俱離苦也手磬打スルコト二句目ノ無辺ノ無ノ  
 字ニテ一声亦次ノ句始メ三声次第如是打シ了リ檀信歸シノ  
 文手磬ハ発無上心ト一字ニ一聲宛打シテ拜スルナリ知恵如  
 海和南聖衆モ同斷也  
 〔講式ノトキ四智讚ハ節三ツアラバ字共ニ四ツ唱エルナリ字ヲ云テ  
 節ヲ唱エルナリ 受我ー礼ハ三ノ手磬ニテ立定ノ業ヲ  
 手磬ニテ一拝着坐引磬ニ声ヲ聞テ坐スベシ○君屠<sup>キニトムベシ</sup>  
 頌師正面ニテ三拜シテ跏趺座スルトキ一衆胡跪ヲ跏趺座ニ直スベシ  
 散梵錫(ノトキ錫杖ヲツクベカラズ)亦胡跪ニ直スベシ散梵錫  
 ノトキ錫杖ヲツクベカラズ花皿ニ手ヲトリ添テ持ベシ  
 伽陀ワニ字三字ト切テ唱ベシ二句ヨリ三句目ニ移ルトキキレザル  
 羊ニ節ヲ唱ベシ傳了ト直ニ高聲ニ

(16オ)

(16丁ウ)



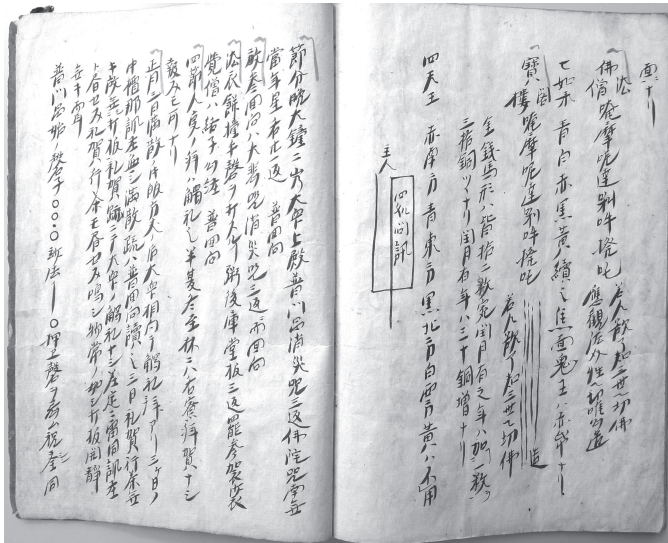
(17丁オ)

南無十六一者ト緩声ニ唱ヘ手磬ニ随テ三拜着座引磬ニ  
 声ヲ聞テ胡跪スベシ講式了テ應供諷經具上ニ立  
 定回向了テ三拜シテ出堂ナリ  
 衆寮庫堂ノ二諷經ワ始メニ三拜ナシ手磬ニテ始ム終リニ三拜  
 シテ上ニ祖堂ニ也但シ衆寮諷經ハ座誦也  
 四節巡寮了テ祖堂ニテ主人工大問訊手磬一声ニテ  
 深く低頭合掌亦一声ニテ歸堂円鏡掛ルコト四節ノミ也  
 飯台ノトキ箸ヲ御飯ニ立テ偏樋ヲ待ベシ  
 御粥ヲスヽル音ヲナスコト勿レシヲ唐辛ニテモ両手ニ捧ケ可喫  
 トキ手ニテ不レ可喫御食御汁ハ勿論ノコト  
 鉢ノ子片手ニテ持ベカラス須ク両手ニ捧ケテ食ヲ汁ヲ  
 モルコトハ兩人ツヽモルベシ雲板打スルコト一番座ハ一通ニ打  
 二番座ハ一通ニ打ナリ首座位ノ飯台ヲフクヲ見バ

折席ニ侍者位ノ前ニ打シテルベシ  
 着座引磬了玉助キヲ不掛受食五観ヲ唱想念ト引コト勿レ  
 鉢子ハヤン著ニテ洗フベシ  
 大布薩ノトキ露地ノ焼香了テ維那展拜席此ノ拜席始終  
 布レ之供頭等 不可舒捲了テ手磬二声シテ兩侍者  
 三人一字二尺間外ニ向テ立此ノトキ手磬一声 此ヨリ打シ始ル也  
 晨參ノ間中柱ノ処ニテ一声大茶堂ニ而一声到ニ書院ニ三声  
 シテ深く問訊シテ請ニ戒師ヲ亦一声シテ軋レ身引ニ戒師ヲ大茶  
 堂ニテ一声晨參ノ間柱ノ処ニテ一声露地位ニ到ラントス  
 ルトキ一声是ニテ了ル手磬鳴コトニ堂鐘宛打スルナリ但シ書  
 院ニ二声ヲ除ク  
 戒師陞高座ノトキ侍者ノ問訊ハ香ハコ侍者モ請ニ問訊ナリ  
 香湯加持ノトキ一返消災呪不レ打レ鈴誦ミ拾ニテ三拜也  
 梵唄了ノ煙力エシノ処ニテ燒香ノ人坐具ヲ収メテ進正

(16ウ)

(17オ)



面三ナリ

〔仏法〕 唵摩呢達喇吽撥吒

若人欲了知三世一切仏  
應觀法界性一切唯心造

七如来 青白赤黑黃続也焦面鬼王ハ赤紙ナリ

〔宝閣〕 唵摩呢達喇吽撥吒

若人欲了知三世一切仏

金錢馬形ハ皆拾二數宛閏月有之年ハ加コト一數ナリ

四天王 赤南方青東方黒北方白西方黄ハ不レ用

主人 四処問訊

〔節分晩大鐘二会大衆上殿普門品消災呪三返仏陀呪南無

当年星各廿一返 普回向

〔放參回向ハ大悲呪消災呪三返ニ而回向

〔法衣餅撞手磬ヲ打スルコト粥後庫堂板三返罷參袈裟

覺僧ハ絡子心経 普回向

〔四節人事ノ拜ハ触礼也半夏冬至杯二ハ各寮拝賀ナシ

報アモ可ナリ

〔正月三日滿散ノトキ婦方丈ノ后大衆相向テ触礼拜アリ三ケ日ノ

中檀那諷経無シ滿散疏ハ普回向読也三日礼賀行茶無

キ故無シ打板一礼賀跡ニテ大衆ノ触礼ナシ差定二雷同諷経

ト書セズ礼賀行茶モ書セズ鳴シ物常ノ如シ打板開靜

無キ而耳

普門品始ノ磬子○○○妙法一〇押エ磬ヲ忌ム祝聖同



(19丁ウ)

南無盧舍那佛 南無釈迦 南無彌陀 南無學  
 南無十方一佛 南無十方一法 南無大聖文殊一薩  
 南無大行一薩 南無大慈一薩 南無十方一切諸菩薩  
 南無歷代一菩薩  
 右三返了テ胡跪次四弘ノ文奉ナリ凡懺悔ノ文仏名  
 四弘之文共ニ余リ引ベカラス  
 四弘誓願文  
 衆生無邊誓願 度 煩惱無盡誓願斷 法一 學  
 仏一 成 請戒子三拜大衆拜了テ具上ニ  
 胡跪次ニ說戒普回向了テ三拜シテ具ヲ  
 収ム次ニ施食恒規願文ナシ  
 若粥后ニ此戒ヲ行スルトキハ普回向三拜了テ亦々鳴手磬具ヲ収メテ  
 三拜了是出堂ノ拜ナリ凡三拜了リ具上胡跪ト有ル処ハ三拜了テ直  
 二不レ立胡跪ナリ堂司着座手磬聲ク打スヘシ諸式共ニ做レ之

(裏表紙)



● 南無盧舍那佛

南無釈迦 南無彌陀 南無學

● 南無十方一佛

南無十方一法 南無大聖文殊一薩

● 南無大行一薩

南無大慈一薩 南無十方一切諸菩薩

● 南無歷代一菩薩

右三返了テ胡跪次四弘ノ文奉ナリ凡懺悔ノ文仏名

四弘之文共ニ余リ引ベカラス

● 四弘誓願文

● 衆生無邊誓願

度 煩惱無盡誓願斷 法一 學

● 仏一 成

請戒子三拜大衆拜了テ具上ニ

胡跪次ニ說戒普回向了テ三拜シテ具ヲ

収ム次ニ施食恒規願文ナシ

若粥后ニ此戒ヲ行スルトキハ普回向三拜了テ亦々鳴手磬具ヲ収メテ

三拜了是出堂ノ拜ナリ凡三拜了リ具上胡跪ト有ル処ハ三拜了テ直

二不レ立胡跪ナリ堂司着座手磬聲ク打スヘシ諸式共ニ做レ之

(裏表紙)

(19ウ)